

令和7年		
文学・思想	山本淳子（京都先端科学大学教授）	文学作品や歴史資料から平安時代の社会と人のあり方を考え、その中を生きた人たちの思いを掘り起こすことを目指す平安文学研究者。はるか昔のみやびな京都の情景に想像を巡らせ、研究や教育、普及活動を進め、平安文学についてのわかりやすく中味の濃い講演は人気を博している。
伝統芸能・音楽	木ノ下裕一（木ノ下歌舞伎主宰）	歌舞伎の演目を現代に再創造するために旗揚げした「木ノ下歌舞伎」を主宰。演目の研究を深めて上演台本を作る補綴を担い、演出家や役者と組んで全国各地で上演。現代において古典を上演することの意味を問い続ける演劇活動は、舞台芸術の魅力と古典芸能の可能性を教えてくれる。
美術・生活文化	中田昭（写真家）	写真家活動の中で、約30年にわたり『源氏物語』をテーマに、歴史、文学、有職故実の研究をしながら撮影を続け、書籍などへの写真の提供や写真展開催を通じた古典文化の普及と啓発活動を行う。臨場感あふれる写真を撮り続け、世界への発信も行い、その継承と普及に努めている。
未来賞	京都光華中学校/高等学校 〔伝統文化教育〕	「伝統文化教育」を特色とし、中高ともに必修授業として履修。「和歌・礼法・書道・邦楽・茶道・華道・日舞・着付け」を3年間もしくは6年間かけて実践的な学びを経験する。伝統文化への興味・関心を養い、生涯学習として学び、継承に関わっていく人材を育てることに貢献している。
	能勢人形浄瑠璃鹿角座	能勢町で200年以上続く郷土芸能の素浄瑠璃をベースに、1998年に人形と囃子を加えた人形浄瑠璃一座として誕生。人形首、人形衣裳、舞台美術は全て能勢オリジナル。全国からも注目される一座。次世代座員へ継承に努め、こども達は誇りをもって活動を展開している。
	ひよこの会童謡合唱団	1987年に創設され伝統的な児童文化「童謡」を継承し、幼児、児童の総合的音楽教育を行っており、童謡を通して団員同士が理解しあい心豊かな人間性を育むことをめざしている。団員は3歳から小学6年生で、卒団生と保護者、ボランティアの講師が活動を支えている。